

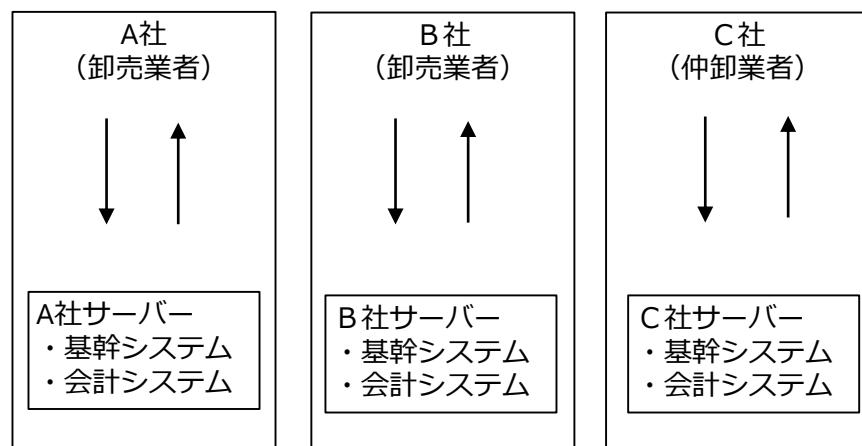
「決済プラットフォーム」のモデル仮説

- (1) 「決済プラットフォーム」の対象範囲
- (2) 「決済プラットフォーム」モデル仮説の全体像
- (3) 「決済プラットフォーム」の基本機能
- (4) 「決済プラットフォーム」の導入効果・メリット
- (5) モデル仮説の具体例

※次頁以降の「決済プラットフォーム」のモデル仮説については、
「決済プラットフォーム等に係る検討委員会」での話し合いを通じて
検討・具体化を行った。

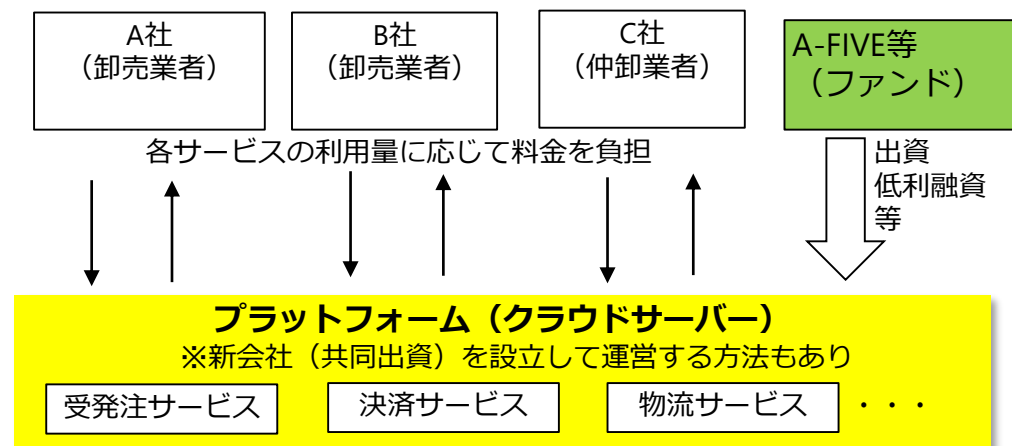
プラットフォーム導入の意義、メリット

旧 来 型 (各社が独自・個別にシステム開発)



- サーバー等を各社が個別に投資・メンテナンスする必要あり。
- 各社にそれぞれ（少人数でも）管理要員が必要となる。
- バージョンアップ等について各社が個別対応
- 各社がそれぞれ保有しているデータが自己完結かつ記録管理にとどまっており、業者間のデータ連係が行いにくい。

プラットフォーム型のイメージ (各社が共通のプラットフォームを利用)



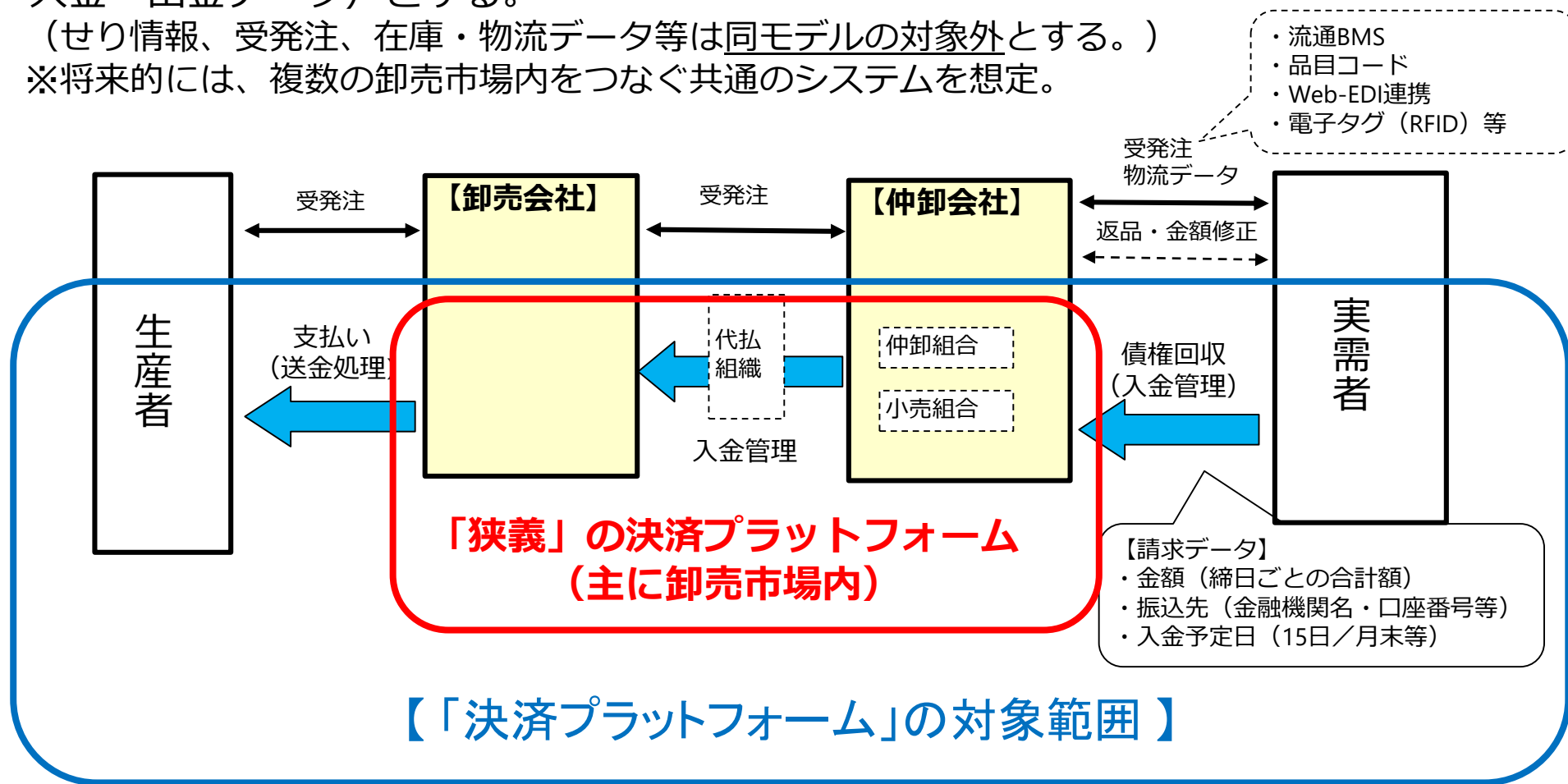
- 共通のプラットフォームとすることで、各社の投資負担・メンテナンス負担、管理要員等を抑制可能。（従量制→変動費化が可能）
- 制度改正やコード変更等への対応、バージョンアップ等の共通の負荷を低減できる。
- 平準化・共通化することで、ビッグデータの蓄積・活用、業者間のデータ連係が容易になる。

(1) 「決済プラットフォーム」の対象範囲

「決済プラットフォーム」の対象範囲としては、支払い・入金管理等の決済業務（主に入金・出金データ）とする。

（せり情報、受発注、在庫・物流データ等は同モデルの対象外とする。）

※将来的には、複数の卸売市場内をつなぐ共通のシステムを想定。



(2) 「決済プラットフォーム」モデル仮説の全体像

想定される課題

改善メニュー・具体例

【課題①】
手作業部分の効率化



例①データ連係（コード標準化、自動連携等）
例②AI-OCRの活用（請求書等の自動読取）

【課題②】
印刷・郵送コスト等の
低減（ペーパーレス化）



例③請求書等の自動配信（電子化）
（WEB閲覧、メール等の自動配信等）

【課題③】
タイムリーな情報共有
・複数端末（PC・スマホ等）での閲覧



例④クラウド化
～既存システムのWEB閲覧機能等の活用

【課題④】
送金手数料の低減
（又はキャッシュレス化）



例⑤スマホでの決済・送金サービス等の活用
（J-Coin Pay等の新サービス、ネットバンキング）

※海外送金(手数料)・為替リスク等の低減

【課題⑤】
与信管理・債権回収等の
効率化



例⑥AI活用(与信枠自動計算、アラート配信等)
例⑦第三者サービス活用（アウトソーシング）

【その他課題】
・融資・審査の迅速化
・商物分離取引等の把握

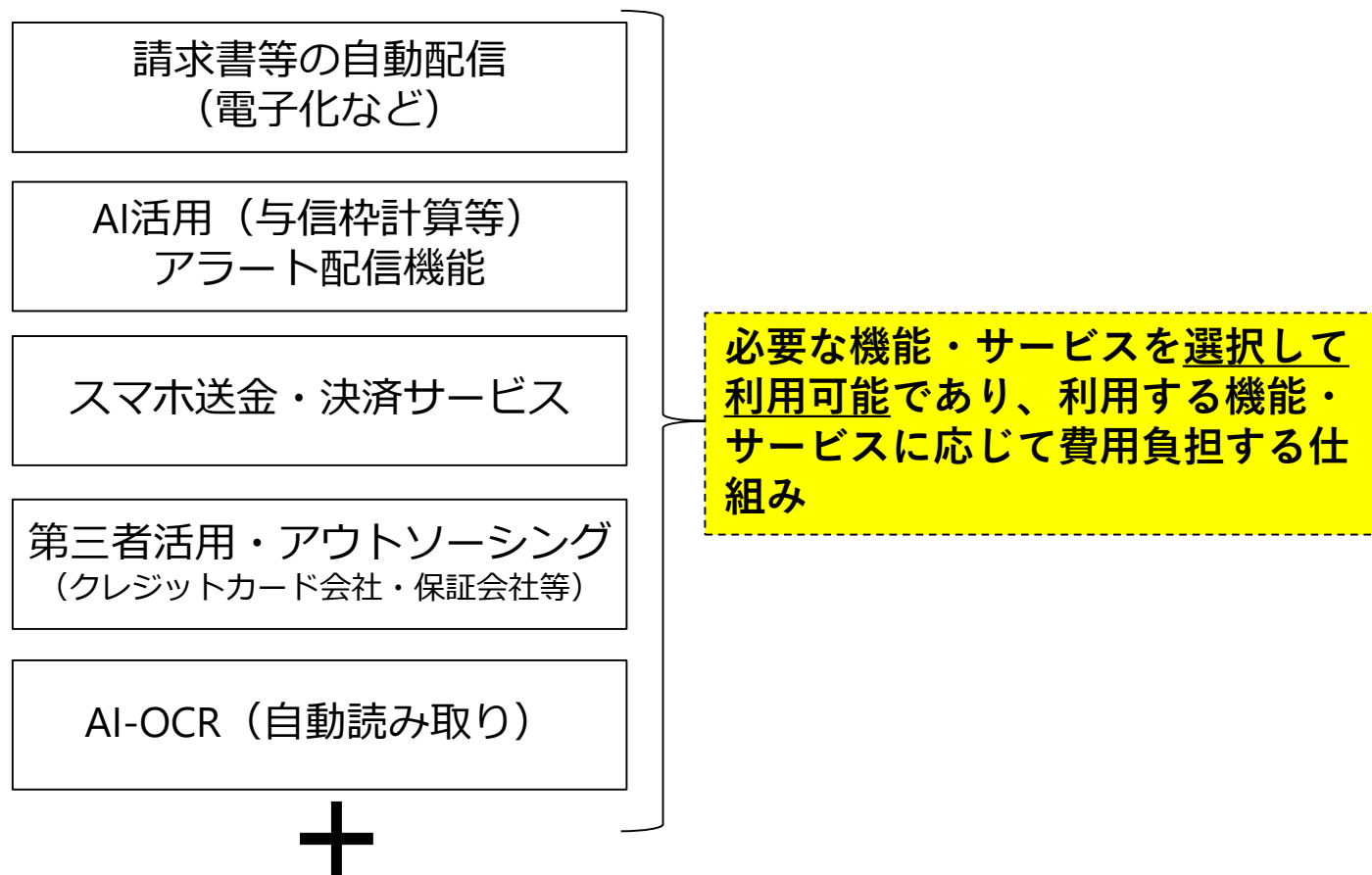


（短期融資審査のスピードアップ）



例⑧ブロックチェーン技術の活用

(3) 「決済プラットフォーム」の基本機能



ベースとなる技術等

クラウド化・サーバー強化

データの連係
(コードの変換プログラム活用)

ブロックチェーン技術の活用

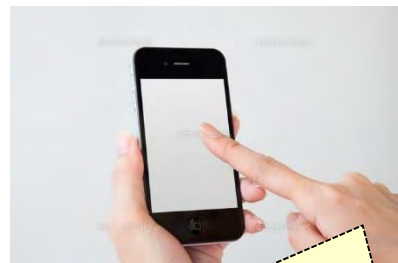
(4) 「決済プラットフォーム」の導入効果（プレイヤーごとのメリット）

【市場関係者（卸売業者・仲卸業者等）のメリット】

- ✓ ペーパーレス化による効率化、郵送料やFAX代等のコスト低減
- ✓ システム開発・運用コスト等の低減(変動費化による負担減)
- ✓ システム等の管理要員の削減
- ✓ 現金管理業務・管理要員等の節減
- ✓ 市場間での情報共有

特に自社単独でのシステム投資余力、管理要員等が限られている中小企業等にとっては、決済プラットフォーム（システム共同利用）のニーズは高いと想定される。

【生産者】



【生産者のメリット】

- ✓ ペーパーレス化による効率化
- ✓ 入金の早期化・多様化
- ✓ 送金手数料の低減（生産者負担のケース）
- ✓ スマートフォン対応等による利便性向上（農作業中や外出先でも入力・確認できる）

「決済プラットフォーム」

ペーパーレス化／キャッシュレス化／標準化／変動費化

卸売業者

仲卸業者
売買参加者

【実需者】

- ・スーパー
- ・外食チェーン
- ・飲食店
- ・専門店 など

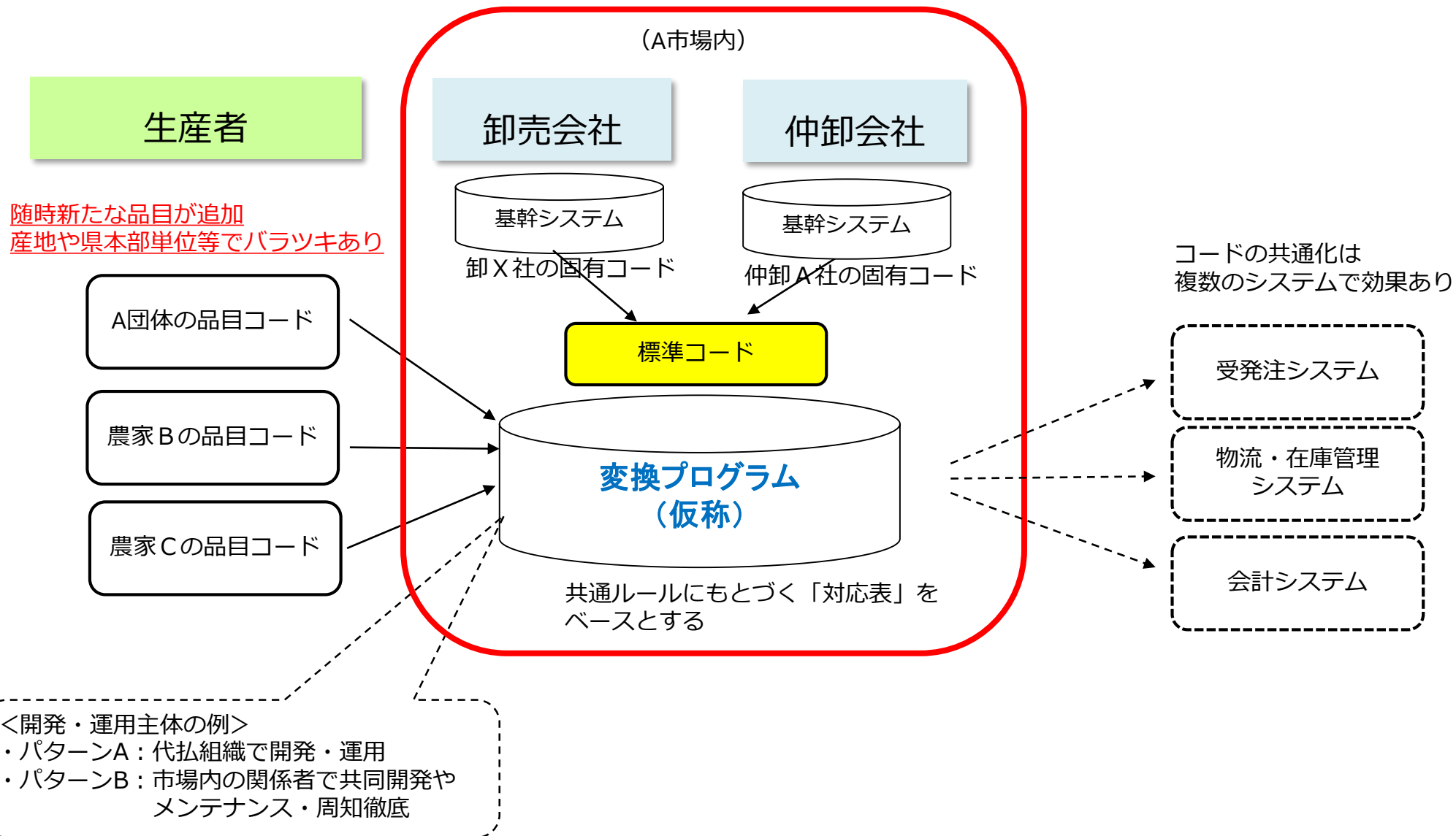
【実需者のメリット】

- ✓ ペーパーレス化による効率化
- ✓ スマートフォン対応等による利便性向上
- ✓ 標準化による効率化、品目データ等の有効活用（ビックデータ蓄積・活用）
- ✓ 現金準備・現金管理等の手間低減
- ✓ 新規取引・売上拡大の促進

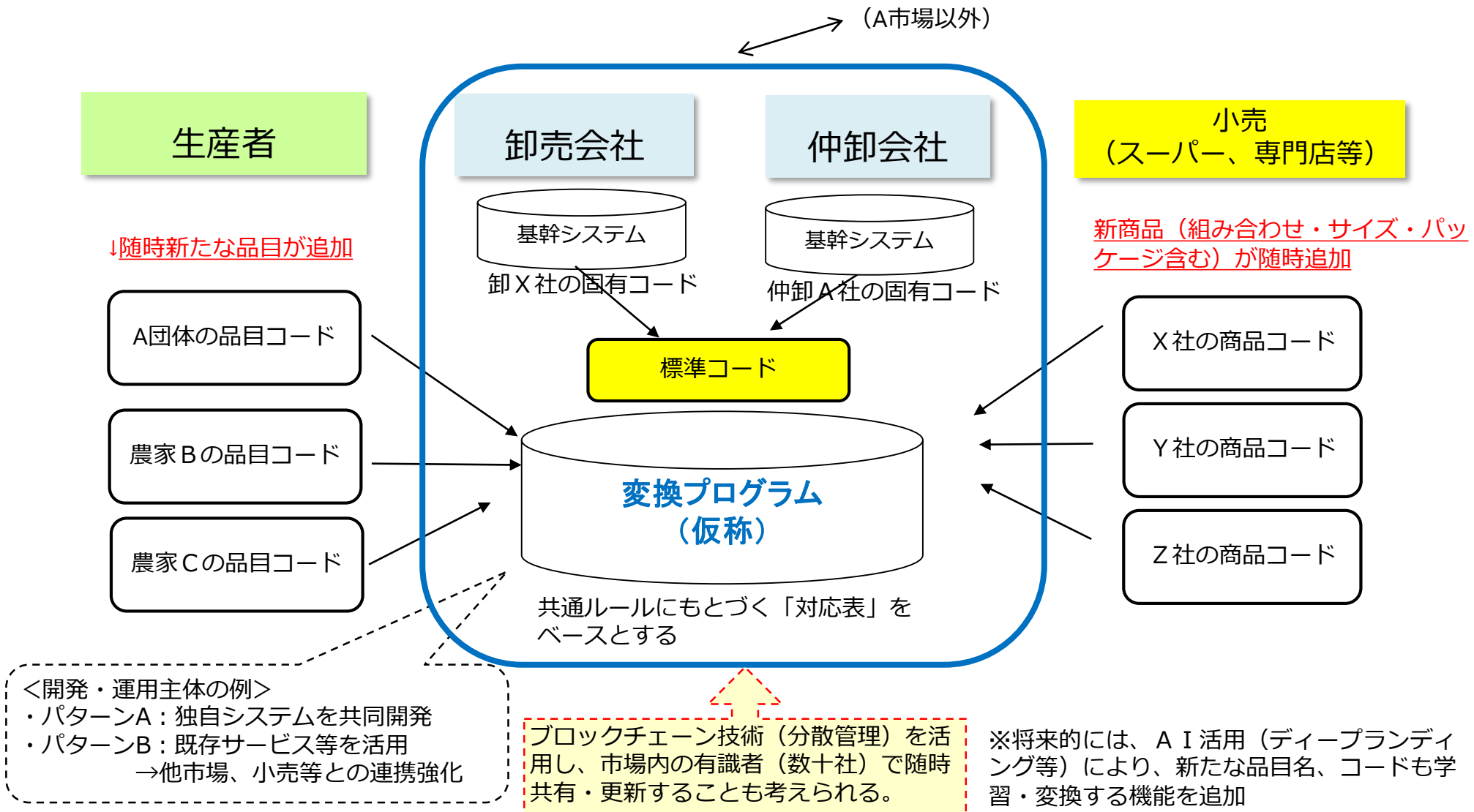
モデル仮説の具体例

- ①データの連係(変換プログラム)
- ②請求書の自動配信
- ③AI-OCR(自動読み取り等)
- ④クラウド化(バックアップサーバ強化等)
- ⑤スマートフォン決済・送金サービス
- ⑥AI活用(与信枠の自動計算、アラート配信)
- ⑦第三者活用(保証会社等)
- ⑧ブロックチェーン技術の活用

具体例①：データ連係（変換プログラム） ～第一段階（品目コード等）



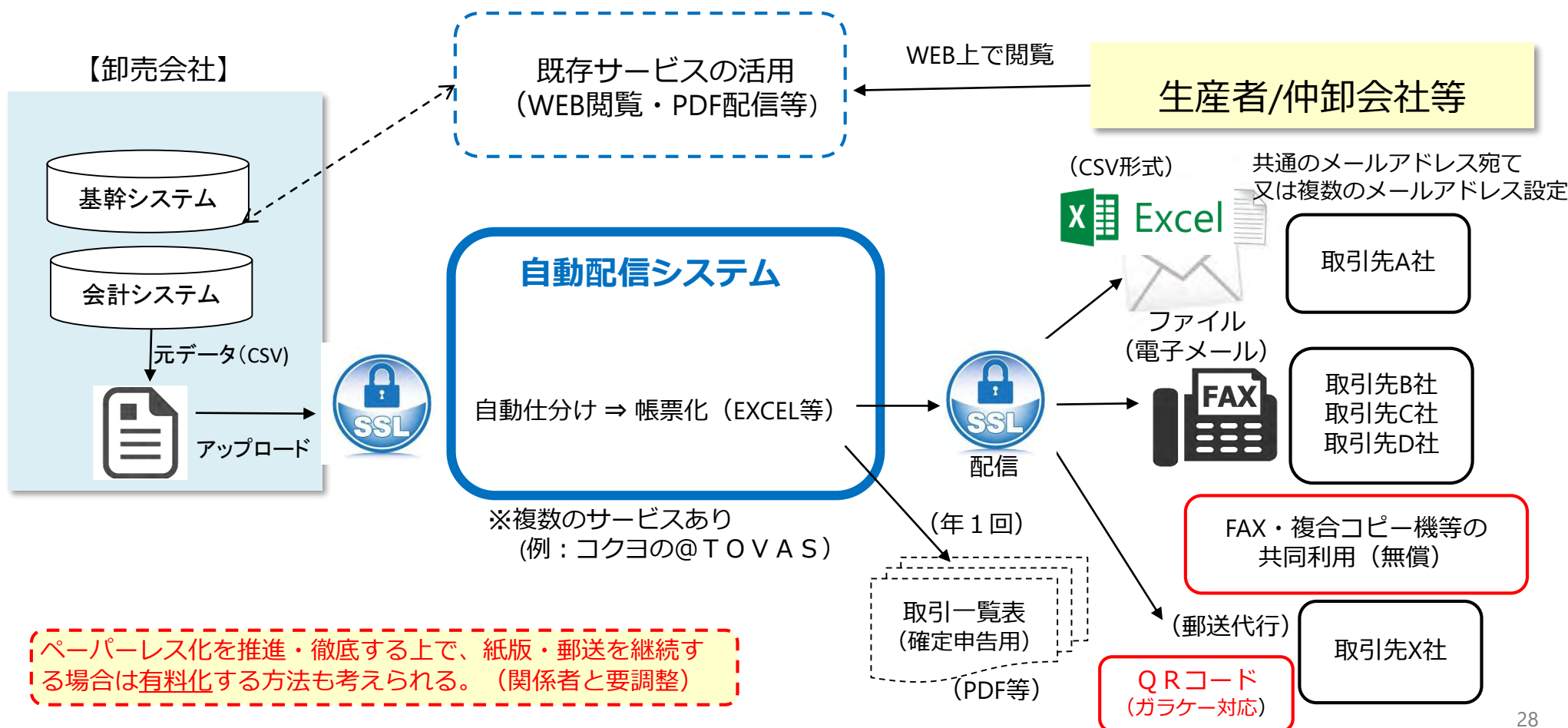
具体例①：データ連係（変換プログラム）～第二段階・発展系（生産者及び小売）



具体例②：請求書等の自動配信（又はWEB上での閲覧）

- ・既存のシステムの機能（WEB閲覧機能）を活用してもらう方法もあり。
- ・ペーパーレス化をすすめるにあたっては、生産者（特にシニア層）へのサポート体制や移行措置等も重要な課題である。

（例：複合コピー機の「無償」シェアリングサービス、QRコード活用・ガラケー対応等）



具体例③：A I－O C R（手書き伝票等の自動読み取り）

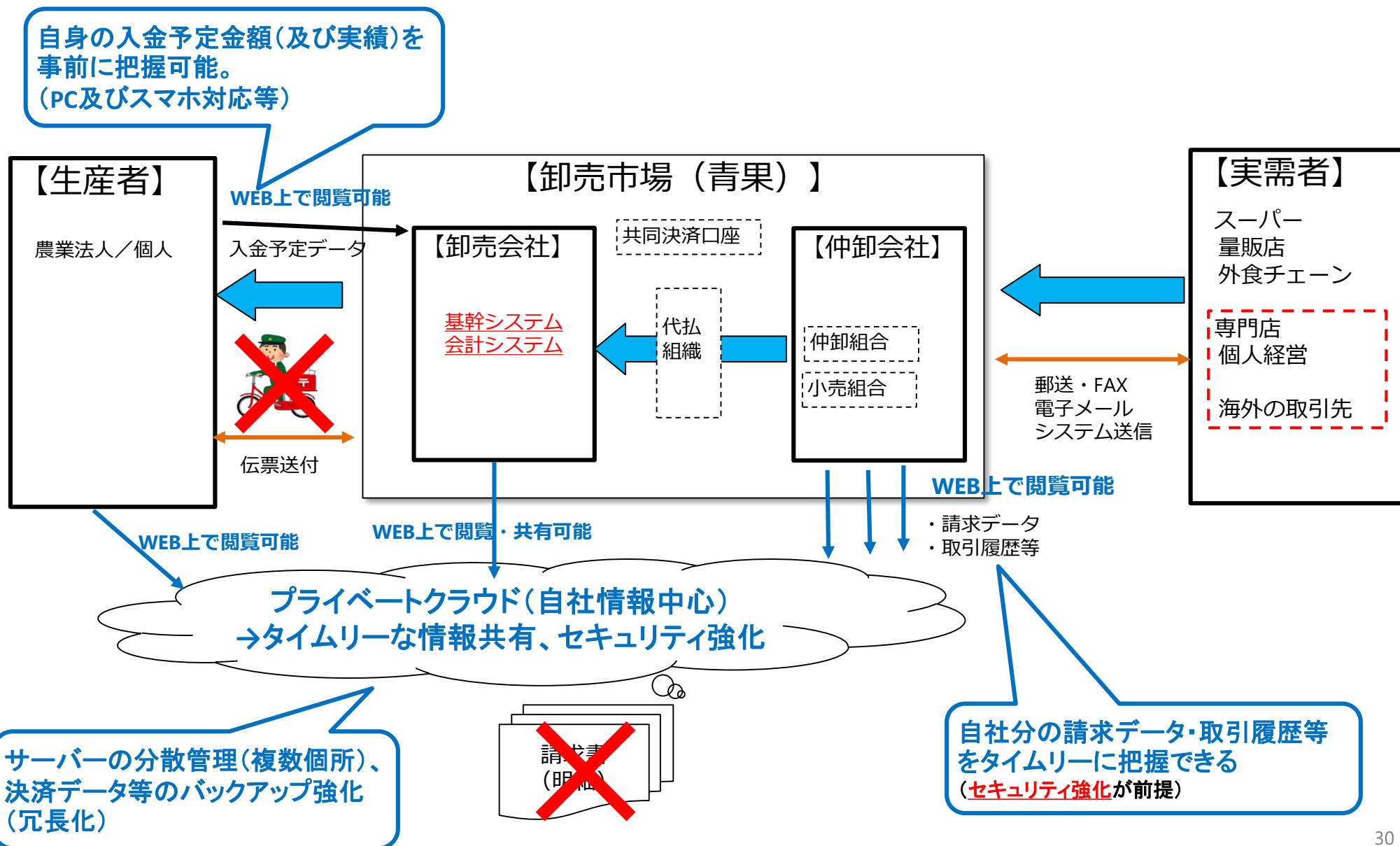
A I－O C R・自動読み込み機能を活用し、手作業業務（手入力、手書き伝票のシステム入力、入力後のチェック業務等）の効率化が期待できる。

- ・対象例：生産者から受領する手書きの伝票や、取引先（個人事業主等）から受領する注文書等
- ・対応システム例：みずほA O Rソリューション、キャノンなど

生産者（又は販売先）



具体例④WEB閲覧（クラウド化）



具体例⑤：スマートフォン決済・送金サービスの活用

農家はスマホ等で入金予定、実績額などをリアルタイムで把握可能

【必要データ（例）】

- ・支払日（カレンダー機能）
- ・金額データ
- ・支払先マスタ（口座名、口座番号等）

【生産者】

農業法人/個人など



ゆうちょ銀行
JAバンクなど

卸売会社

【会計システム等】

振込データ

仲卸会社

【会計システム等】

入金データ

自動連携（API連携等）

送金処理

WEB閲覧
履歴確認

送金処理

スマホアプリ
（外部システム）

共同決済口座
（A銀行等）

データ上の処理（手入力不要）

WEB閲覧
履歴確認

入金

【小売】

専門店（個人経営）
個人事業主

（小口・多頻度の取引中心）

「おくる」「もらう」「はらう」

の3つの操作で簡単！

スマホ送金アプリの活用



銀行間振込でも送金手数料無料
夜間・土日でも対応可能

銀行間振込でも送金手数料無料
現金持ち込みは不要で、スマホで簡単に送金

具体例⑥：AI活用（与信限度額の自動計算、データの利活用）

